

まほらいな市民大学の様子

令和7年6月1日（日）郷土芸能鑑賞

『黒田人形芝居 三番叟・観音霊験記 壺坂寺の段』

飯田市上郷 黒田人形座の皆さん 座長 清水謙一 氏



国選択無形民俗文化財「黒田人形」は、1700年頃の元禄年間に始まったといわれ、三百年以上の歴史を持つ伊那谷で最も古い人形芝居です。人形芝居をする「下黒田の舞台」は1840(天保11)年に建てられたもので「国重要有形民俗文化財」に指定されています。

今回は、黒田人形の歴史と人形の動かし方についての説明があり、その後2つの外題(演目)の公演がありました。『三番叟』では、きらびやかな衣装、気品のある表情、ユーモラスな人形の動きに目を奪われました。『観音霊験記 壺坂寺の段』では、人形遣い3人の息の合った細やかな人形の動きと、太夫の気持ちのこもった語り(謡)と三味線の音色が一体となり、悲哀の物語を見事に表現した感動的な公演でした。

学生からは「幕が開くとステージ上にすばらしい舞台ができていてびっくりしました。人形の一つ一つの所作が美しく、まるで血が通っているようでした。」「語り、謡、三味線もすばらしく、クオリティーの高い芸能に驚きました。」「人形遣い三人の息がぴったりで、人形浄瑠璃の世界にすっかり引き込まれました。」「伝統芸能を継承されておられる黒田人形座の皆様の郷土愛と保存の努力されている姿に頭が下がります。これからも大事な文化財を守ってほしいと思います。」「といった感想がありました。